

ナラハクの“今”をお届けする季刊情報誌

130th
ナラハク

Nara National Museum
News

Vol.

2025
10・11・12月

135



奈良博^だより



〔展覧会〕

第77回

正倉院展

〔特別陳列〕

春日若宮おん祭の
信仰と美術

〔特集〕

今年の正倉院展は
万^{バンパク}博^だ！

瑠璃
の
環

附
受
座
（
中
倉
70
）



今年の正倉院展は

万バンパク博だ！



展覧会担当者
三本周作研究員が解説！

1300年前の日本って、実はグローバル！
その様相を本年出陳の宝物から探る！



素材が
東南アジア・
インド産

木画紫檀双六局(北倉37)

＜寄木細工の双六盤＞

表面に使われている紫檀は、東南アジアやインドで産出される貴重な銘木（高級木材）。なお、この宝物で遊ぶことのできる「双六」は現代の日本でおなじみのスゴロクとルールが異なり、中国から飛鳥時代に伝来した盤上遊戯。

実は「四不像」の角！

中国産



馴鹿角(南倉174)

＜シフゾウの角＞

宝物名の通り、長年トナカイの角と考えられてきたが、近年の調査により、中国東部や台湾に生息するシフゾウというシカの一種の角であることがわかった。この宝物の角の根本には頭蓋骨が残っており、角が生え替わる際に自然に落ちたものではないと考えられる。

花氈(北倉150)

＜花文様のフェルトの敷物＞

動物の毛を圧縮してシート状にするフェルトの歴史は古く紀元前にさかのぼる。世界各地で作られてきたが、日本に定着したのは近代以降とされる。この宝物は唐の時代に作られた大陸からの舶載品と考えられている。素材が羊毛であることが科学的な調査で判明している。



正倉院宝物が教えてくれる
奈良時代の国際交流の豊かさ

例年にも増して、広く知られる貴重な宝物の数々が出陳される第七十七回正倉院展。「正倉院宝物は、シルクロードのタイムカプセルです」と語るのは、本展担当者の三本周作。その心は？

「正倉院というのは本来、古代の役所や寺院付属の大きな倉庫のことをいいます。現存唯一の例が、この正倉院で、元々は東大寺の正倉のひとつでした。

正倉院宝物の中核をなすのは、光明皇后がその目録である『国家珍宝帳』とともに東大寺の大仏に献じた聖武天皇のご遺愛品です。国際色豊かな品々ですが、すべてが大陸からの舶載品というわけではなく、日本で作られたものも多く含まれています。それでも、日本にはない素材が使われていたり、技法や意匠に、シルクロードを経て伝わった世界各地の影響が色濃く見られます。こうした聖武天皇ゆかりの品々のほかに、正倉院には東大寺の法要にまつわる仏具、東大寺の造営にあたった造東大寺司関連の品々が宝物として伝えられています。

地理的な広さという横軸、歴史の深さという縦軸とこちらも比類なきスケールの宝物をぜひじっくり鑑賞して欲しい。

技法が
中国

磁鉢(南倉9)

＜陶製の鉢＞

中国・唐代には、主に緑色・褐色・白色の3色の釉薬がかけられた陶器（三彩）が盛んに作られ、これを「唐三彩」という。本品はそれとよく似るが、唐で作られたものではなく、唐三彩の技術を踏まえて日本で作られた「奈良三彩」。正倉院には、ほかにもいくつかの奈良三彩の宝物が伝わっている。



ガラスの部分は

西アジア
で製作

瑠璃杯 附 受座(中倉70)

＜ガラス製のさかずき＞

アルカリ石灰ガラスを吹きガラスの技法で作ったもので、西アジア製と考えられる。後付けされた脚部分は銀製で、百済の舍利容器によく似たデザインが見られる。



脚の部分は

東アジアで
製作

東南
アジア産

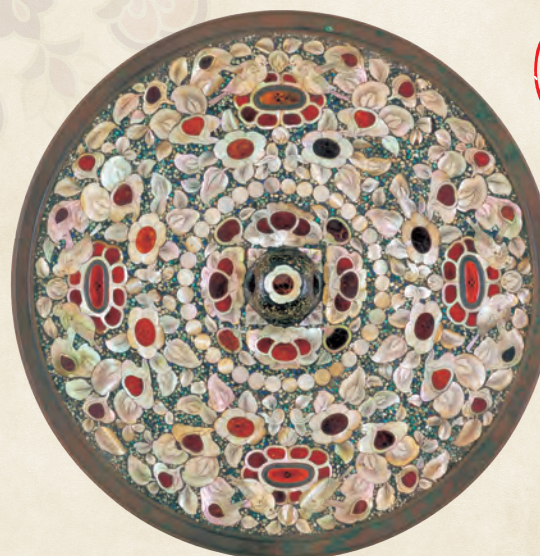


黄熟香(中倉135)

＜香木＞

ジンチョウゲ科の一部の種類の樹木のうち、傷などを受けて内部に黒っぽい樹脂が生じて沈着し、芳香を放つようになったものが「沈香」と呼ばれる。「蘭奢待」という雅名で知られるこの香木は、ベトナムからラオスにかけての山岳部で産出された沈香と成分が近い。

中国
からの
舶載品



平螺鈿背円鏡 附 題箋(北倉42)

＜螺鈿飾りの鏡＞

金属部分の組成が中国・唐代の鏡と近似し、中国からの舶載品とされている。南方の夜光貝、ミャンマーや中国・雲南省で産出される琥珀、熱帯・亜熱帯の海洋に生息するウミガメ・玳瑁の甲羅など素材も国際色豊か。

特別陳列 春日若宮おん祭の信仰と美術

会期 2025 12.13[土]—2026 1.18[日]

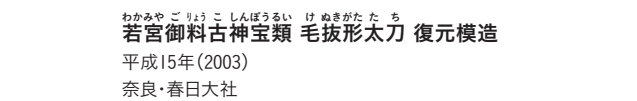
かぐら かんし
神楽装束・簪
現代(20世紀)
奈良・春日大社



なそり
重要文化財 舞楽面 納曾利
平安時代(12世紀)
奈良・春日大社



わかみや ごりょう こんぼうらい けぬきがた た
若宮御料古神宝類 毛抜形太刀 復元模造
平成15年(2003)
奈良・春日大社



春日祭礼之図(部分)
江戸時代(19世紀) 奈良・春日大社



国宝
若宮御料古神宝類
銅造狛犬
平安時代(12世紀)
奈良・春日大社



約900年の歴史をもつおん祭をクローズアップ

春日若宮おん祭は、1年に一度、春日大社の若宮(若宮神社)より御旅所へ若宮神をお迎えし、1日24時間にわたりさまざまな芸能を捧げる祭礼です。御旅所の若宮神のもとに祭礼参加者が詣でる風流行列や、田楽や舞楽、猿楽などの芸能神事が有名です。平安時代の保延2年(1136)に始まり、古儀の祭礼を守り続けて今年で890年目を迎えます。

本展はおん祭の歴史と祭礼、ならびに春日大社への信仰に関わる美術を紹介する恒例の企画で、近年行われた文化財復元の成果もあわせて展示します。また本年は、地域の住民が集まり、春日曼荼羅を本尊として法会を行う「春日講」についても紹介します。

担当研究員が教える
必見
Point!

企画課交流推進室
アシエイトフエー
羽良朝風



今回はおん祭の紹介とともに、生駒郡平群町福貴に伝わった春日講に関する資料も展示します! 福貴では平成初期まで春日講が行われ、昨年、本尊となる「春日鹿曼荼羅」などが、春日大社へ奉納されました。長年受け継がれた信仰の歴史にもご注目ください。



詳細は
こちらから!

今期の仏像館ニュース
9月30日(火)~12月21日(日)

法華寺本堂の東南隅に安置されている十一面観音立像を、修理完成を記念して特別公開します。第3室で像内納入品を、第7室で十一面観音立像をご覧ください!



【特別公開】修理完成記念 特別公開 奈良・法華寺十一面観音立像
金峯山寺仁王門 金剛力士立像

【名品展】不動明王立像(鎌倉時代(12~13世紀))埼玉・地藏院、仏手(飛鳥時代(7世紀))奈良・新薬師寺、童子形坐像(平安時代(12世紀))当館



仏像館名品展
出陳一覧はこちら!

今期の新館名品展ニュース
12月13日(土)~2026年1月18日(日)

奈良博の館蔵品・寄託品を、さまざまなテーマでご紹介。今期は「賛のある仏画・垂迹画」(絵画)、「鏡像と懸仏」(工芸)、「古写経と聖経」(書跡)、「祈りの残照—仏教伝来のあとさき—」(考古)です。



【絵画】重文 諸観音図像(平安時代(12世紀))当館 【工芸】重文 山王十社本地懸仏(鎌倉時代 建保6年(1218))当館 【書跡】国宝 正法念処経卷第三十三(中尊寺経)(平安時代(12世紀))和歌山・金剛峯寺 【考古】重文 鳳凰文塼(飛鳥時代(7世紀))奈良・南法華寺



新館名品展
出陳一覧はこちら!

第77回 正倉院展

会期 2025 10.25[土]—11.10[月]

くわきのげんかん
桑木阮咸(南倉125)
〈まるい胴の絃楽器〉



とうこ
投壺(中倉170)
〈投矢の壺〉



ぎくめん ししこ
伎楽面 師子児または
太孤児(南倉1)
〈楽舞用の面〉



てんびょうほうもつふで
天平宝物筆(中倉35)
〈大仏開眼に用いられた筆〉



はくせき かしゃ
白石火舎(中倉165)
〈大理石製の香炉〉



じす
竹帙(中倉58)〈経巻のつつみ〉



とりげ てんしほりょうふ
鳥毛篆屏風 第一扇(北倉44)
〈鳥毛の文字屏風〉

ナラハク開館130年、そして万博イヤーにふさわしい華やかなる正倉院展

正倉院宝庫は毎年秋に勅封(天皇の意を受けた封印)が解かれ、宝物の点検が行われます。その時期に合わせて宝物を一般に公開する機会が正倉院展です。正倉院展の初回は昭和21年(1946)に奈良帝室博物館(現・奈良国立博物館)で開催され、その後東京で行われた3回(昭和24年、34年、56年)を除き、毎年、奈良で開催されています。77回目の開催となる今年の正倉院展でも選りすぐりの宝物が会場を彩り、私たちが天平の華やぎの世界へと誘います。宮内庁正倉院事務所による最新の宝物調査の成果も織り交ぜながら、豪華なラインナップで開催する今年の正倉院展を、ぜひともご堪能ください。

担当研究員が教える
必見
Point!

文化財課美術工芸室
主任研究員
三本周作



正倉院宝物は、天皇の権威によって代々守られてきた比類ない人類の遺産です。その現物に出会える正倉院展が77回目を迎える今年、教科書でも見たあの宝物やこの宝物が、会場にお目見えします。ファンの方もはじめての方も、正倉院の魅力を存分にご堪能ください!



詳細は
こちらから!

像内納入品が伝える先人の営み

法華寺の十一面観音像といえは、光明皇后の姿を写したと伝承される同寺の本尊像(国宝)が著名だが、このたび仏像館で十一月二十一日(日)まで特別公開するのは同じ本堂内でも東南隅にまつられる等身の像「図一」である。本尊像とは対照的に、その姿が思い浮かぶ方は少ないのではなからうか。

左右の手に水瓶と錫杖を執り、台形の磐石上に立つ姿は、奈良時代以来の靈驗像として知られる奈良・長谷寺本尊を模している。従来、室町時代の制作とされる一方、体部は鎌倉時代にさかのぼり、頭部のみ後世の補作とする見方もあった。また、簡略な彫り口や像の表面に彩色しない点から、疫病を退けたり雨が降ることを願い一日で仏像を造り上げる「一日造立仏」の可能性があった。

昨年度、解体修理を実施した際に像内から納入品

が発見され、頭部は延宝四年(一六七八)の作と判明した。体部には光明真言を押印した紙を巻いたものを十四巻も納めていたが、これとは紙の劣化や変色の度合いが明らかに異なる丸めた紙束「図二」が目をついていた。慎重に展開すると、より古い時代にさかのぼる結縁交名が複数現れ、うち一枚「図三」に「一日造立観音」の記があった。鎌倉時代後期から室町時代にかけて、興福寺の内外で一日造立仏が制作されたが、本像の体部は鎌倉時代のもので五例目の確認となった。

延宝の修理は光背や台座の再興をふくむ大がかりなものだったが、当時の修理担当者は断片化が進んでいた造立当初の結縁交名をよくぞ残してくれたと思う。先人の尊い営みに思いを馳せながら、令和の修理により面目を一新した像と納入品の展示をお楽しみいただきたい。

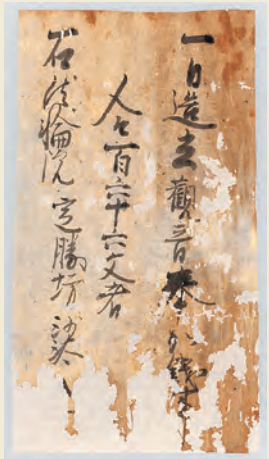
(美術工芸室長 山口隆介)



【図1】十一面観音立像(奈良・法華寺)



【図2】結縁交名を取り出した状態(写真提供:公益財団法人美術院)



【図3】結縁交名(8枚のうち)

NEWS 1



写真展の詳細はこちらから！



国宝 刺繍釈迦如来説法図(部分)
中国・唐または飛鳥時代(7世紀)

写真:六田知弘

写真展「開館130年記念 三千世界 奈良国立博物館 名品撰―写真家・六田知弘の眼」

第3期 10月15日(水)～12月21日(日) ※期間は変更する場合があります。

地下回廊で開催中の写真家・六田知弘氏による奈良博コレクションの写真展、第3期が10月より始まります。とくにじっくりご覧いただきたいのは、刺繍釈迦如来説法図。堂々たる体つきの釈迦如来を中心にほとけの世界を表した、古代刺繍工芸の最高傑作です。写真では刺繍の様子が手に取るようにわかり、絹糸のかがやきまで伝わってきます。息をのむ美しさ、ぜひ会場でご堪能ください。

NEWS 2

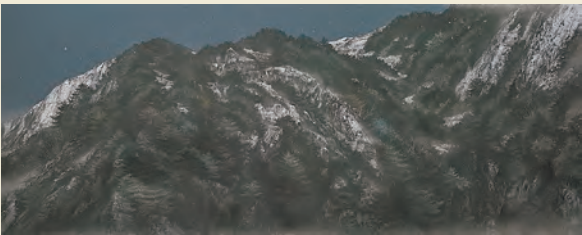
千住博氏寄贈絵画作品を公開中です

日本画家・千住博氏が、奈良国立博物館開館130年を記念して描きご寄贈くださいました作品を、地下回廊で公開中です。開館日はいつでも無料でご覧いただけます。迫力ある2作品を、ぜひお楽しみください。



© Senju Studio LLC

ウォーターフォール・オン・カラズ Waterfall on Colors 2024年
滝の内側から見た鮮やかな世界! 唐で愛された繡彩色が表現されています。千住氏が中国で取材を重ね、制作されました。



© Senju Studio LLC

遥かなる響き Echoes from Afar 2025年
漆黒の闇のなか、星明かりに浮かび上がる大自然を描いた作品。弘法大師空海が修行したと伝わる室戸岬の御厨人窟がモチーフです。

スペシャルサンデートーク

美術や歴史のこと、博物館の活動など、当館ならではの多彩なテーマ、日頃聞くことの出来ない「通」なお話をご用意して、皆様をお待ちしております。どうぞお気軽にご参加ください。

10月19日(日)
「奈良博の生物被害対策」
小峰 幸夫(当館保存修復室 アソシエイトフェロー[文化財防災担当])

11月16日(日)
「奈良博と辿る山の信仰と美術」
松井 美樹(当館美術工芸室 アソシエイトフェロー[絵画担当])

12月21日(日)
「神仏習合思想をよみとく」
斎木 涼子(当館列品室長[書跡担当])

1月18日(日)
「釈迦をめぐる美術と奈良博」
内藤 航(当館資料室 研究員[彫刻担当])

2月15日(日)
「聖なる珠『宝珠』の美術」
三本 周作(当館美術工芸室 主任研究員[工芸担当])

3月15日(日)
「文化財写真と奈良国立博物館―その歴史と『いま』―」
宮崎 幹子(当館文化財課長[情報担当])、
西川 夏永(当館資料室 写真技師)
※定員は180名未満の予定です

時間 13:30～15:00(13:00開場)
会場 当館 講堂
定員 各180名(事前申込抽選制) ※3月15日を除く

申込方法 要事前申込(WEB申込のみ)
※当日申込での参加はできません。
受付期間 当館ウェブサイトの「サンデートーク」から各講座欄をご覧ください。
受講料 無料(展覧会観覧券等の提示は不要)

《抽選制へ変更のお知らせ》

サンデートークは、事前申込抽選制となりました。抽選結果は期日までにお送りいたします。当選者にキャンセルが発生した場合、繰り上げ当選連絡を行います。詳細はウェブサイトをご覧ください。



サンデートークの詳細・お申込みはこちらから！

イベント

第77回 正倉院展

10月25日(土)
「天翔る聖武天皇」
講師:三田 覚之(当館交流推進室 主任研究員)

11月1日(土)
「古代ガラスの復元 ―瑠璃環を中心に―」
講師:迫田 岳臣 氏(ガラス工芸家、倉敷芸術科学大学 主任技術員)

11月8日(土)
「大仏造顕と宝物献納」
講師:飯田 剛彦 氏(宮内庁正倉院事務所長)

春日若宮おん祭の信仰と美術

1月10日(土)
「平安貴族の美意識に挑む―復元模造製作に携わって―」
講師:北村 繁 氏
(合同会社 北村文化財漆工代表、選定保持技術「漆工品修理」保持者)

時間 13:30～15:00(13:00開場)
会場 当館 講堂
定員 各180名(事前申込抽選制)

申込方法 要事前申込(WEB申込のみ)
※当日申込での参加はできません。
受付期間 当館ウェブサイトの「公開講座」から各講座欄をご覧ください。
受講料 無料(展覧会観覧券等の提示は不要)

公開講座の詳細・お申込みはこちらから！



Events



名品展無料観覧日に
仏像館の西側入口を開放します！

明治27年(1894)に完成した、奈良で最初の本格的西洋建築である仏像館(重要文化財 旧帝国奈良博物館本館)。特に玄関まわりの装飾は意匠にすぐれ、130年の時を経た今なお、奈良の景観のなかに美しくたたずんでいます。関西文化の日と春日若宮おん祭お渡り式の日、普段は閉鎖している仏像館西側入口を開放します。この両日は名品展を無料でご覧いただけます。展示とあわせて、建物の雰囲気もお楽しみください。



無料観覧日

・11月15日(土)、16日(日)…関西文化の日
・12月17日(水)…春日若宮おん祭お渡り式の日

※各日、西側開放は15時30分まで。
なお、雨天の場合は開放は中止となります。

これからの
展覧会
Upcoming

特集展示 新たに修理された文化財

【会期】2025年12月23日(火)～2026年1月18日(日)

【会場】奈良国立博物館 西新館

長い歴史を経て今に伝わる文化財は、その多くが過去に人の手による修理を受けながら大切に保存されてきたものです。これらの文化財をさらに未来へと継承していくために、当館では、彫刻・絵画・書跡・工芸・考古の各分野の収蔵品（館蔵品・寄託品）について、毎年度計画的に修理を実施しています。

本特集展示では、前年度までに修理された収蔵品の中から選りすぐった文化財を展示公開すると共に、その修理内容についてパネルでご紹介いたします。



剥落止め作業の様子（重文 増長天立像・当館）

会員制度のご案内

■奈良国立博物館賛助会

令和7年10月1日現在、特別支援会員4団体・個人1名、特別会員10団体、一般会員14団体、個人187名のご入会をいただいております。

【特別支援会員】 団体：(株)読売新聞大阪本社、(株)大和農園ホールディングス、(株)日本香堂、宗教法人地蔵院 個人：佐野 謙三様

【特別会員】 (株)奥村組西日本支社、(株)朝日新聞社、(株)ライブアートブックス、(株)葉風泰夢、結の会、(株)ワールド・ヘリテイジ、富士シリシア化学(株)、(株)都市経営戦略研究所、(学)二本松学院

【一般会員】 団体：日本運送(株)関西西美術品支店、(株)尾田組、(株)木下家具製作所、(株)天理時報社、(株)きんでん奈良支店、奈良信用金庫、ひかり装飾(株)、(株)南都銀行、小山(株)、奈良県有名専門店会、(株)ゴードー、一般社団法人 茶道裏千家 淡交会 奈良支部、西日本旅客鉄道(株) (入会順)

個人：杉森 光子様、吉岡 信幸様、佐野 謙三様（以上、令和7年6月ご入会）

竹村 正義様、小林 一雅様（以上、令和7年7月ご入会） 本條 陽子様、植村 響様（以上、令和7年8月ご入会）

忠内 香織様（以上、令和7年9月ご入会）

奈良国立博物館賛助会の
詳細や申込は
こちらから！



■キャンパスメンバーズ

「奈良国立博物館キャンパスメンバーズ」とは、国立博物館と大学等との連携を図り、博物館が所蔵する文化財を核として文化や歴史とともに学ぶ場を提供する会員制度です。加入していただいた学校には、次のような特典があります。

特典例

■名品展・特別陳列の無料観覧

学生証または教職員証の提示により、会員期間中は**何度でも**名品展（特別陳列を含む・特別展は除く）を**無料**でご観覧いただけます。

■特別展の観覧料金割引

①学生証の提示により、観覧料金が**400円**になります。

②教職員証の提示により、観覧料金が**100円引き**になります。

ただし、①・②について、別途定める場合がございます。

■研究員による解説付きの 特別鑑賞会の実施（要申込）

※展覧会により実施しない場合があります。

キャンパスメンバーズの
詳細や加入校は
こちらから！



ご利用案内(10月～12月)

■開館時間／午前9時30分～午後5時

※「第77回正倉院展」会期中(10月25日～11月10日)の月～木曜日は午前8時～午後6時まで、金・土・日曜日、祝日は午前8時～午後8時まで。

※名品展は10月・11月の毎週土曜日及び、12月17日(水)は午後7時まで。

※入館は閉館の30分前まで(正倉院展は閉館の60分前まで)。

■休館日／毎週月曜日、10月14日(火)、11月11日(火)、11月25日(火)、12月28日(日)～1月1日(木)

※10月13日(月・祝)、11月24日(月・祝)は開館。

※正倉院展会期中は無休。

※その他、臨時に休館日を変更することがあります。

■観覧料金 名品展・特別陳列・特集展示

	一般	大学生
個人(当日)	700円	350円

※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳またはマイリイDをお持ちの方(介護者1名を含む)は無料。 ※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生及び教職員の方は無料。 各種割引は当館ウェブサイトをご確認ください。

■前売日時指定券料金

「第77回正倉院展」

一般	高大生	小中生	キャンパスメンバーズ(学生)
2,000円	1,500円	500円	400円
1,500円 (レイト割)	1,000円 (レイト割)	無料 (レイト割)	

※観覧には原則、事前予約制の「日時指定券」の購入が必要です(無料対象の方を除く)。 ※日時指定券は当日各時間枠開始時刻まで販売いたします。 ※観覧当日、日時指定枠に空きがある場合のみ、奈良国立博物館敷地内の特設窓口でも日時指定券を販売します(発券料200円/枚が必要)。 ※障害者手帳またはマイリイDをお持ちの方(介護者1名を含む)、未就学児、レイト割(小中生)、奈良博メンバーシップカード会員の方(1回目及び2回目の観覧)、賛助会会員(奈良博、東博[シルバー会員を除く]、九博)、清風会会員(京博)、特別支援者は無料。 ※無料対象の方は「日時指定券」の購入は不要です。証明書等をご提示ください(小中生以下は不要)。 ※日時指定券販売場所：ローソンチケット、美術展ナビチケットアプリ、CNプレイガイド、展覧会オンラインチケット、奈良国立博物館特設窓口(日時指定枠に空きがある場合のみ) ※本展の観覧券で、名品展(仏像館・青銅器館)もご覧になれます。 ※詳細は当館ウェブサイトをご確認ください。



【交通案内】

近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から市内循環バス(外回り)「氷室神社・国立博物館」下車すぐ。

※当館には駐車スペースがございませんので、近隣の駐車場をご利用ください。



奈良国立博物館
NARA NATIONAL MUSEUM

『奈良博だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒を同封して、当館の広報室にお申し込みください。 ※返信用封筒には宛名を明記し、長形3号の場合は110円切手を、角形2号の場合は140円切手を貼付してください

〒630-8213 奈良市登大路町 50 番地 (奈良公園内) ハローダイヤル 050-5542-8600 ウェブサイト <https://www.narahaku.go.jp/>